

JIS

製図—表示の一般原則— CADに用いる線

JIS Z 8321 : 2000

(JSDE/JSA)

(2006 確認)

平成 12 年 12 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法第12条第1項の規定に基づき、社団法人日本設計工学会 (JSDE)/財団法人日本規格協会 (JSA) から工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が制定した日本工業規格である。

JIS Z 8321には、次に示す附属書がある。

附属書A(参考) 参考文献

附属書1(参考) JISと対応する国際規格との対比表

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：平成12.12.20

官 報 公 示：平成12.12.20

原 案 作 成 者：社団法人日本設計工学会 (☎169-0073 東京都新宿区百人町2丁目1-22-17 セラミックビル TEL 03-5348-6301)

財団法人日本規格協会(☎107-8440 東京都港区赤坂4丁目1-24 TEL 03-5770-1573)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 FA部会(部会長 吉川 弘之)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省 産業技術環境局標準課 情報電気標準化推進室 [☎100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

**製図—表示の一般原則—
CADに用いる線**

Z 8321 : 2000

**Technical drawings—General principles of presentation—
Preparation of lines by CAD system**

序文 この規格は、1997年に第1版として発行されたISO 128-21, Technical drawings—General principles of presentation—Part 21 : Preparation of lines by CAD systemsを基にして作成した日本工業規格であるが、JIS Z 8316に整合させるために一点鎖線及び二点鎖線の使い方を変更し、これに伴って、計算式などを変更した。

近年、CADによる製図に描かれる不連続の線の形は、CAD装置によってかなり異なっている。このような理由から、ISO 128-20に加えて、国際規格によって標準化された規則は、計算機によって算出し、プロッタで出力する線の構成要素の形が同じになることを意図している。

なお、この規格で、点線の下線を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。

1. 適用範囲 この規格は、JIS Z 8312に従って線の最も大切な基本形である不連続線の計算手順を規定する。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を示す記号は、ISO/IEC Guide 21に基づき、IDT (一致している)、MOD (修正している)、NEQ (同等でない) とする。

ISO 128-21:1997 Technical drawings—General principles of presentation—Part 21:Preparation of lines by CAD systems (MOD)

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版 (追補を含む。) を適用する。

JIS Z 8312 製図—表示の一般原則—線の基本原則

備考 ISO 128-20 : 1996 Technical drawings—General principles of presentation—Part 20 : Basic conventions for linesがこの規格と一致している。

JIS Z 8314 製図—尺度

備考 ISO 5455 : 1979 Technical drawings—Scalesからの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

3. 定義 この部で用いる主な用語の定義は、JIS Z 8312による。

4. 線の要素の計算

4.1 線形番号02の線 (破線) この形の線の配置は、図1を参照。